

式 辞

今年は、3月末から4月にかけての冷え込みもありましたが、桜の花も満開を過ぎ、いよいよ本格的な陽春の到来を感じることができるといえる今日のよき日に、揖斐川中学校へのご入学を迎えられた新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、2年生、3年生の皆さんにつきましても、それぞれの進級おめでとうございます。

本日は、揖斐川町教育委員会教育長職務代理者 川瀬善忠様、揖斐川町教育委員、養基組合教育委員、揖斐川町議会議員の皆さまをはじめ、日ごろからお世話になっております多数のご来賓の皆様、大変ご多用のところをご臨席いただきました。高い席からではございますが、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、110名の新入生の皆さん、今日からいよいよ中学生としての生活がスタートします。ただ今は、新入生のみなさん一人一人の呼名に対するはつらつとした返事と元気に立つ姿や、凛とした姿勢で話に聞き入る姿から、「よし、中学校でもがんばるぞ」という新鮮な意気込みがひしひしと伝わってきました。ぜひ、このやる気に満ちた今の熱い思いをこれからもずっと大切に、中学校生活を充実したものにできることを願っています。

中学校は、わずか3年間という短い期間ではありますが、人の一生の中でも、体だけではなく、頭や心も、大きく成長できる時です。毎日の授業や体育大会などの学校行事、生徒会活動や学級活動、そして部活動など、楽しいことばかりではなく苦しいことも、好きなことばかりではなく嫌いなことも、と、きっといろいろあると思いますが、それら一つ一つのことにはぜひ、前向きにチャレンジし、学級や学年の仲間、2年生や3年生の先輩たちと共に協力したり、切磋琢磨したりして、互いに高まり合うことができることを心から願っています。

最近テレビで見たあるドラマの中で「世の中に才能のない人なんていない。苦しいときや辛いときにそれを乗り越えようと精一杯努力できることこそが才能なのだ」という台詞があり、何て素敵な言葉だろうと感じた私は思わずメモをしました。

2、3年生のみなさんも含めて、中学生の皆さんの中には無限の可能性が 있습니다。中学校への入学や新しい学年への進級という節目のときを、自分自身がさらに大きく成長するための絶好のチャンスととらえて、新たな意気込みと希望をもって、平成31年度をスタートし、いろいろなことにどんどんと挑戦していけることを期待しています。

ちょうど一週間前に、5月1日に改められる「令和」という新元号が発表されました。ここには、「人の心の清らかさと美しさをもったまとまりの中で、新しい文化を生み出す日本の可能性を求める時代に」という期待が込められていると聞きました。

本年度の揖斐川中学校でも、自らの願いをもちながら、「思いやりの心」も大切にしつつ仲間と共に動き、その中で互いの成長を喜び合い、伝統の継承と新たな創造に挑戦していくことを目指してほしいと願っており、新元号「令和」に込められた願いと相通ずるものがあると私は感じています。新しい時代のスタートにふさわしい希望に満ちた揖斐川中生331名の歩みと大きな成長、そして飛躍に大いに期待しています。笑顔と活気あふれる学校づくりに向かって、一緒に歩み始めましょう。

結びになりますが、保護者の皆様におかれましては、あらためて、お子様のご入学、誠にありがとうございました。保護者の皆様をはじめとして、ご家族の方々のこ

れまでの多大なご苦勞の上に、今日のおき日を迎えられ、慶びもひとしおのことと思ひます。そんな大切なお子様を今日からお預かりすることとなります。保護者の皆様、地域の皆様、関係各位の皆様にご支援、ご協力をいただきながら、皆様の大きなご期待にたえられますよう、本校職員一同、一枚岩の「チーチーム斐川」として、全力を尽くしてまいりたいと心に誓っております。

最後に、ここにお集まりのすべての皆様の益々のご健康とご活躍を祈念いたしまして、入学式並びに始業式にあたっての式辞といたします。

平成31年4月8日 斐川町立斐川中学校長 折戸 克明